

最近は怪文書もめっきり減ったらしい。長い間不満の温床であった原田逮捕が一つの切欠だろう。それに新体制が「聴く耳を持つ姿勢」に転じた事は大きい。世の中であれ一つの組織であれ、三人いたら派閥が出来ると言われる位、人の考えというのは異なる訳だから全ての人に満足の行く人事や施政というのは有り得ない。人の不満を聞いていると、そんなに大した事でなかったり、話を聴いて貰ったりする事で収まる場合も多々ある。大抵の場合、人間模様が元になった人事的な不満に属する。

不満であっても疑惑であっても怪文書は支持されない。その大きな理由は名を名乗らない卑怯さだろう。内容によっては一石を投じる事は出来る。相手を傷つけるだけが目的ならそれもよからう（但しこれは犯罪になる可能正大）。だが多くの支持は得られない。改革を訴えるなら支持を得る事が大事である。変革を求める事をあまり好まない人達を説得する、というのは大変な事である。それから間違いや誤解がそのまま噂になって信じられる事も間々ある。

私は昔こういう経験をした。私の田舎の実家から歩いて五分の所に天草四郎が討ち死にした島原の乱で有名な原城という所があって、その下の漁場の貝掘権を誰かが持っているから貝堀に行けなくなった、という。誰が持っているのか、と聴くと分らないという。売った者は誰か、と聴くと役場だという。また昔の様に自由に買い掘りに行きたいと町民の人達が言うので、それはとんでもない事だと町長の所に掛け合いに行ったら、全く無い話でいつでも自由に買い掘りに行って下さい、と言う話だった。漁業に関しては漁業組合があって、それなりの規制はあるらしいのだが潮干狩りに関しての規制は全くなかった。しかも組合ではなく個人が権利を持つ、という話だったので話し合いに行った心算が……。

こんな根も葉もない話だって時に噂になり、しかもそれが真実として信じられ、誰もその地域に潮干狩りに行かなくなったのである。しかしその話を聴いた私が町長に尋ねたから誤解が解けたけど、従順な庶民はそういう疑問さえ尋ねられないのだ。そこを組織の上に立つ者は理解して欲しい。

私は文科省を訪ねた時、担当者はハッキリと「国土館は勝ち組です」という

言葉を聴いた。この言葉の意味は、今後、乱立した学校経営の中で、体力の無い所、知名度の無い所、特殊技能の無い所、学生から見て魅力の無い所、社会に貢献出来ない所等は淘汰されていく中で、確実に残れる大学になれる資格があるという事だろう。勿論、その言葉に自惚れて権力闘争・乱脈経営に明け暮れ、学校運営の本文たるを忘れるなんてのは言語道断であるが、国士舘という大学が日本を代表する大学に勝ち残って行く為に何を為すべきか、執行部の方々には先ずは自らの身を律し深い教養を持って大局的な判断を常に心掛け、信念のある経営をして頂きたい。私は外野から、しかし国士舘OBとして常に是々非々で監視します。勿論基本は国士舘の応援団です。繁栄と発展を願っています。少々の不平、不満、疑惑は目を瞑りましょう。問題は不正の許容範囲です。

許容を超える不正はどんな立派な人でも、ただの一度でもやはり責任を取る必要はあります。上に行けば行く程、潔さが求められるのです。その自覚を持った人でなければ人の上に立つ資格はないのです。それらも含めて新体制を見守りましょう。一朝一夕で歴史や伝統は出来上がる物ではありません。九十年間の重みは従事して来た教職員全ての人々、OB、関係者、業者、そして学生諸君、全ての人々に支えられての歴史である事を忘れてはならない。その重みを執行部には感じて頂きたいのである。そうすれば自ずからその責任と自覚が生まれる筈である。

一連の騒動はそういう意味で、雨降って地固まるという結果をもたらしたのである。今まで小さな不正が連鎖的にあった。メスが入った事が無かった。内輪で不透明に揉み消し、噂が消えるのを待った。それらが繰り返された事で、怪文書の温床になるし、原田みみたいな錯覚者まで出て来た。例えば銀行でも金融庁が正式に精査したら、半分以上は債務超過で銀行の体を成してないだろうと言われている。

だが時期や環境が変わる事で危機を脱する事も出来る。だから殊更、事を荒立てたりしないし、時には見てみぬ振りをするのだ。私の様に見て見ぬ振りの出来ない者が出て来ると当事者は困惑する。困惑するが一方では、やはり不正は暴いて欲しい、と願う人もいる。その中庸を保つ事が難しいのである。本日はこの辺で。 白倉 拝